

## 情 報

第41回：平成19年5月24日

### 対合歯の挺出防止に考慮して咬合挙上を行った治療用義歯

歯科技工士学科専攻科 生体技工専攻8回生

田村 寿和子

患者は57歳女性、臼歯部クラウンの脱離を訴えていた。また、咬合崩壊による過蓋咬合を呈しており、前歯部は残根状態であった。治療用義歯を製作し、臼歯部のデンチャースペースを確保するために、治療用義歯で咬合挙上を行い、歯冠補綴、最終義歯製作へ移行する治療計画であった。

そこで、治療用義歯は修理や調整の利便性を考え、アクリルレジン歯と義歯床用常温重合レジンを使用した。臼歯部の残存歯は咬合挙上量に対応するためキャップレストを設置し、その咬合面上にクリアレジンで築盛することで、対合歯の挺出防止を図った。本症例で、治療の流れに考慮した義歯製作を経験した。

第42回：平成19年6月25日

### 銅ファイバーによる義歯の除菌効果

株式会社 ケイ・ワイブラン

吉田 勝利

銅は人類が初めて手にした金属であるが、銅のさびの一種である緑青には毒性があるという誤った見方があった。しかし、1967年に東京大学医学部が行った6年間の動物実験から、緑青は無害同様の物質であると確認され、その後の厚生省（現厚生労働省）の調査から、緑青は「無害に等しい」との認定が出された。

最近、銅繊維から水中に溶出する銅イオンが、次亜塩素酸ナトリウム溶液とキレート化合物を生成し、その銅イオンとキレートにより残留塩素濃度が減少し続け、60分後には数値が0となることがわかった。また銅ファイバーのカンジダ菌、サルモネラ菌、黄色ブドウ球菌、病原性大腸菌O-157、レジオネラ菌に対する影響を実験した結果、いずれの菌についても8時間後、24時間後の集落数が0となったことが新潟薬科大学（及川紀久雄教授）との共同研究で明らかとなった。そこで銅イオンの歯科治療への応用特に、銅イオンの除菌洗浄作用に着目し、水道水に義歯と銅ファイバーを15

～20分程度浸して置くだけで残留塩素と、義歯に付着していたカンジダ菌や細菌が除去される「入れ歯除菌容器コパーイオン®」を開発することができた。今回は明倫短期大学との共同研究を実施し、附属歯科診療所を受診する患者さんを対象に、入れ歯除菌容器の使用感を聴取し、まとめる予定である。

第43回：平成19年6月25日

### 残存歯に配慮した義歯製作

歯科技工士学科専攻科 生体技工専攻8回生

井上 侑太

患者は80代女性で、下顎義歯の不適合と残存歯の疼痛から義歯新製を希望した。鉤歯となる右側犬歯、第一小臼歯は軽い動揺が認められたため、キャストクラスプの鉤腕はアンダーカットに入れずに把持力のみを与え、犬歯部は基底結節レストの設計として、義歯の維持力は残存歯ではなく義歯床に求めることとした。そのため、埋没前に必要最小限のブロックアウトを行い、次に完成義歯でシリコン模型を製作した。その模型上で義歯着脱を確認と調整を行い、可能な限り広範囲で義歯床と粘膜面が接触するように、通常の技工工程にはない工夫を行った。口腔内で義歯が安易に離脱する事はなく、また残存歯の疼痛が消退したことから患者の主訴は改善できたと思われた。

第44回：平成19年7月19日

### 要介護高齢者のための義歯着脱補助具の製作

新潟大学医歯学総合研究科 口腔生命科学専攻

加齢歯科補綴学分野

岡田 直人

要介護高齢者または介護者が義歯を安全、容易に着脱できることにより、義歯の装着率が向上することを目的とした義歯着脱補助具を試作した。今回は構造をシンプルにするため装着用と撤去用を分けて製作した。個人トレー様の形態とした装着用補助具は、トレー用レジン、スプリント用光重合レジンおよび熱可塑性加圧成型用エルコジュールで製作した。撤去用補助具は材料の弾力性を利用して義歯の保持が可能な設計とし、